☆☆　新型コロナウイルス感染症ニュース 第 106 号　2022.2.14　☆☆

立春も過ぎて、雪の気配にも真冬の寒さはなくなってきたようです。新型コロナウイルス感染症の拡がりはまだまだ続いており、特に高齢者、小児の感染予防が重要になっております。

安藤会長より会員の皆様へ

連日の新規感染者数がなお増加しています。全世代にわたって感染者がみられ高齢の入院患者が増加しています。市内コロナ対応病院の受け入れ病床数の８割はすでに埋まっており、ほとんどが高齢者です。介護のニーズも高く病院の負担が増しています。

この時期は一般救急患者も多く、一部の病院ではコロナ対応のために一般救急を制限せざるを得ない状況となっています。市内の医療機能を維持していくためには下記のような対策が急務と考えます。

１　市民・県民へのよびかけ

２月１０日の県緊急共同会見で知事、市長、県医師会佐藤会長とともに２月１１日から１３日の連休中、なるべく自宅にとどまるようによびかけました。

２　入院依頼の際の状態把握

入院要請をする際、感染者の状態把握はなるべく担当医師ご自身に行っていただきたいと県調整本部医師から要望があります。病院で入院するまでもないと判断されるケースが散見されるとのことです。限られた病床を有効に使わなければなりません。

３　高齢者施設のクラスター警戒

オミクロン株は短時間で大規模クラスターに発展する危険があります。
県や市と協力し、監視体制強化と早期介入に努めます。

４　後方ベッドへの円滑な移送

高齢入院患者の退院後をスムーズにしなくてはなりません。退院基準を満たした患者さんの受け入れに一層のご協力をお願いいたします。

５　ワクチン追加接種の加速

スタートでつまずきましたが、県からモデルナワクチンが追加配分されることになりました。必要な量をしっかり確保してまいります。

６　高リスク感染者、高齢感染者に対する抗ウイルス剤の早期投与

高リスクや高齢の感染者に対して、抗ウイルス剤の早期投与を含めた適切な診療と経過観察をお願いいたします。今後使用可能となる新規薬剤につきましても情報提供に努めてまいります。

会員の先生方におかれましては、上記の対策につきましてご理解と特段のご配慮をお願いしたく存じます。

オミクロン株感染波のピークアウト後もしばらくは入院患者が増加することが予想されます。執行部一同、さらに気を引き締めて対応に当たります。どうかご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

（安藤健二郎）

ワクチン接種事業について

仙台市のワクチン接種事業の現状です。VRS に２月９日現在で登録されている集計で、仙台市の接種対象者 961,978 人に対して、２回目接種は 837,126 回行われております（全体の接種率 87.0%）。**追加（3 回目）接種は 103,458 回（接種率 11.4%）**ですが、**65 歳以上の高齢者**については対象 258,831 人に対して 67,915 回が行われ、**接種率は 26.2%**になります。NHK の調べでは、宮城県全体で高齢者の３回目接種率は 21.63%であり、東北６県では最も接種が進んでおります。

仙台市内個別接種へのワクチン移送はなかなか希望量がお届けできず、思うように接種が進められない

現状にありますが、今後の確保について折衝が進められております。今週移送量が決定、通知される見込みの 3 月前半分のワクチンは高齢者施設等への巡回接種に使用する分を除き、モデルナのみとなりますが一定量の確保が可能ではないかと見込んでおります。しかし移送量の決定通知は、14 日に発送されて 16 日頃から市民に届く接種券の配達と、ほぼ同時期となる見込みで、予約に際して再度ご負担をおかけいたしますが、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

5～11 歳の小児用ワクチン接種事業も 3 月から開始される見込みです。2 月 12 日（土）にはオンラインで「5 歳以上 11 歳以下の新型コロナワクチン接種に関する講習会」が行われました。**川崎医科大学小児科、中野貴司教授**による「**5～11 歳小児への新型コロナワクチン～接種の考え方と手技**」では有効性や副反応、今後の計画、直近のワクチン審議会の情報だけでなく、小児への筋注の手技など、小児ワクチン接種の全体を網羅する内容でした。仙台市新型コロナウイルスワクチン接種推進室からは「**新型コロナワクチン 仙台市における小児（5～11 歳）接種の概要**」について解説されました。講習の内容は数日中に医師会ホームページ内の**医師会 TUBE にアップ**される予定です。ID、PW が不明な場合は事務局へご確認ください。先日のアンケートで小児への接種可能とお答えいただいた医療機関には、近日中に**小児用ワクチン接種マニュアル、移送希望量の調査アンケート**が送られる予定です。医師会では、引き続き接種事業に積極的に協力していきます。

（CVPT、福壽岳雄）

職場や学校等で新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合の施設管理者の対応について(R4.2.8)

宮城県医師会より郡市医師会長あての通知です。ただし仙台市については、**仙台市からまだ正式な通知はありません**。

宮城県の説明で、「新型コロナウイルス感染症患者の急増に伴い、宿泊療養施設や保健所業務等の逼迫が想定されることから、当分の間、職場や学校等で新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合の調査については、その施設の管理者等に実施いただくことになります」とあります。施設管理者が、陽性者本人に基本事項を確認し、聞き取った情報を元に、濃厚接触者を選定し、7 日間の自宅待機と 10 日間の健康観察について指示することとなります。

ただし宮城県のホームページに「**仙台市内の事業所における対応は、仙台市のサイトを参照**」するようにあり、仙台市のホームページでは

https://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/jigyosha/documents/betten0205.pdf

に、フローチャートが示されております。ただし、**仙台市では陽性者や同居家族、医療機関、高齢者施設等を優先した調査や検査を実施**していると記載されており、学校等については通知が待たれるところです。

宮城県、仙台市のホームページいずれでも前記「陽性者、同居家族、医療機関、高齢者施設等」以外の濃厚接触者（無症状者）の **PCR 検査の実施については言及されておりません**。

前 105 号の本ニュースでもお知らせした、厚生労働省からの通知「新型コロナウイルス感染症の感染急拡大が確認された場合の対応等について（R4.2.3）」から抜粋いたしますが、「感染急拡大が生じた場合には、無症状者も含む濃厚接触者は**発症または検体採取日から、7 日間（8 日目）で待機期間の解除が可能**。ただし **10 日間を経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認等が必要**。」とあり、やはり**濃厚接触者に PCR 検査の実施を求めていない**ことにも注意が必要です。

学校医や産業医、ご自身の医療機関の管理のご参考としてください。

冷凍庫用温度計の配布について

昨年、仙台市医師会で用意してワクチン接種医療機関に配布しました、家庭冷凍冷蔵庫用の温度計が十数個残っております。ご希望医療機関に無料配布したいと思います。ご希望される医療機関さまは事務局

までご連絡ください。明日 2 月 15 日までに申し込み数が在庫を上回った場合は、1 医療機関に 1 個として、抽選させていただきます、申込数が在庫を上回らなかった場合は、先着順に配布させていただきます。

ニュース部、ワクチン担当チームより　（106 号担当　福壽岳雄）

軽症者の割合が多いとはいえ、オミクロン株の拡大は総数も多く、特に高齢者、小児の感染者の重症化が懸念されます。仙台市民の命と健康を守るため、医師会として全力で感染症に立ち向かいたいと思います。

仙台市医師会へのご意見・ご質問等は FAX、メールでお願いいたします。

FAX：022-267-5193　　メール：sen-ishi@sendai.miyagi.med.or.jp